

令和 6 年度第 2 回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録

■開催日時・場所

令和 6 年 1 1 月 1 1 日（木）午後 1 5 時から午後 1 6 時 1 0 分まで
防府市議会棟 3 階 全員協議会室

■次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議題
 - (1) デマンドタクシーの運行について
4. 報告事項
 - (1) ヒアリング及びアンケート調査結果等について
 - (2) その他
5. 閉会

■配付資料

	資料名
1	令和 6 年度第 2 回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	資料 1 デマンドタクシーの運行について
3	資料 2 ヒアリング・アンケート結果の概要
4	資料 3 公共交通計画の基本方針（案）
5	参考資料 1 事業者ヒアリング結果
6	参考資料 2 バス乗り込みヒアリング結果
7	参考資料 3 高齢者向けアンケート結果
8	参考資料 4 協議会の内容（予定）
9	防府市地域公共交通活性化協議会委員名簿
1 0	席次表

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会	権代 祥一	欠席
		防府市老人クラブ連合会 理事	湯原 温茂	出席
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席
		市民代表	東福 俊明	出席
	公共交通事業者等	防長交通(株) 乗合営業部長	河合 貴志	出席
		中国ジェイアールバス(株) 生活交通活性化推進室長	渡瀬 千博	出席
		西日本旅客鉄道(株)山口支社 防府駅長	古村 敏彦	出席
		(有)野島海運 監査役	西山 寛	欠席
		(一社)山口県タクシー協会 理事	重舩 伸	出席
		山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 副分会長)	中村 圭吾	出席
	道路管理者 港湾管理者	中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	中岡 浩太	欠席
		山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	吉岡 進	出席
		山口県防府港務所 主査	市瀬 悟	欠席
	警察	防府警察署 交通課長	上野 伸哉	出席
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	舘 昭憲 (代理：寺崎 泰弘)	代理 出席
		山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長	尾上 真弓	欠席
	計画作成市	防府市 総合政策部長	永松 勉	出席
事務局		総合政策部次長	磯邊 範子	
		総合政策部政策推進課 課長	関屋 拓亮	
		総合政策部地域振興課 課長	西野 紀子	
		福祉部高齢福祉課 課長	阿部 かおり	
		総合政策部政策推進課 課長補佐	末富 真一郎	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	川崎 雄樹	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任主事	藤田 卓	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任主事	鵜原 浩平	

■議事録

1. 開 会

2. 会長挨拶

協議会は、地域公共交通計画の見直しと、事業を承認して次年度に向けて新たなスタートを切るという役割がある。非常に難しい課題が多いが、ご審議いただき、忌憚のないご意見をいただきながら進めたいので、御協力よろしくお願いいたします。

3. 議 事

会長から会議の公開について確認後、議事を進行した。

協議事項（１） デマンドタクシーの運行について

事務局から資料１について説明。

目山会長 玉祖デマンドタクシーについて、防府駅までの運行を希望する声があるとのことだが、既存の運行事業者が居る限り、補足的にあるデマンドタクシーが防府駅まで行くのは、制度的にも道義的にも難しいという理解でよいのか。

また、玉祖デマンドタクシーについて、乗り継ぎ利用を増やすために事務局側で検討していることがあるか。

事務局 ご認識の通り。基本的にバス路線がなくなったところをデマンドタクシーで補完している実態がある。将来見直すとすれば、県立総合医療センターの移転が見直しのタイミングだと考えている。

乗り継ぎ利用については、待合環境の整備に取り組む。既存の県立総合医療センターのバス停は立地的に利用者に負担、移転後の医療センターの待合を良いものにするためバス事業者と県との仲介をしていく。

A 委員 玉祖デマンドタクシーの右田公民館での乗降利用が少ないが、他に乗降場所として便利のいいところを選定できれば利用率が上がるのでないか

事務局 公共施設としてニーズがあると判断し、右田公民館を設定した。後は買い物の場所としてサンmart、ユアーズバリューを設定。結果的に公民館の利用状況が少ないということは想定と異なっている。見直しも考えたいが、近くにより便利な場所の候補がない。ご意見検討課題として、承りたい。

B 委員 県立総合医療センターからの乗り継ぎが少ないこととの原因は何が考えられるか。個人として思うのはタクシーで行くほうが多いからだと思っている。他市で実施しているような、乗り継ぎの割引事業なども検討してはどうか。

目山会長 防府駅まで一本で行けることが望みであることはわかる。公共交通の使命としては、フィーダーとしてあるデマンドバスと本数の多い基幹路線バスを乗り継がせるという形が一番望ましいが、工夫が必要。例えば医療センターの中に待合でもあれば、そこで情報を手にして乗り換えをするといったように。今後の計画の検討の中で、B委員がおっしゃったようなことも含めて検討を進めていただきたい。

◎協議結果

来年度の切畑デマンドタクシー及び玉祖デマンドタクシーの運行については、今年度と同様に実施することとする。

4. 報告事項

資料2、3について、事務局から説明。

C委員 運転士不足対策の参考として、自社の取り組みを紹介する。
お金をある程度かけての採用活動、便利なものをどんどん取り入れていく。
配車アプリ等は利用者にも、新規の運転士にとっても便利。
夜間タクシー事業は認知も広がっており、最近入ったドライバーも深夜頑張っている。いい流れを継続していきたいので引き続きお願いしたい。

目山会長 採用活動、人手不足対策も社会構造の変化の中で進めていくので単純でない。夜間タクシー事業も協力して下さる事業者、利用者があって成り立つ事業である。夜間に車が走っていることは防犯上も重要な役割を担うのでこれからうまくやっていただきたい。待合環境というのが1つのテーマになるが、このことについて事業者の立場から意見をいただきたい。

D委員 待合環境はベンチと上屋の2点だが、防府市内だと道幅等の問題で物理的に設置できない場所が多い。バス事業者が社として設置しているベンチはなく、自治会や広告代理店が設置している。課題は維持管理、利用者に高齢者が多い中で必要性は重々承知しているが、現実問題として、物理的な問題と維持管理の難しさから設置が進んでいない。

目山会長 民間はお金を出せるが、仕組み作りまではやれないところがあるので、検討課題として待合空間を打ち出していく中で政策として議論、検討をしていただきたい。他市の事例でスポンサーを募ったりして設置を検討しているところもある。D委員に伺いたいのが、例えば県立総合医療センターが建て替えをした時に、バス停の前に入り口や待合室があるような病院の設計をしてその中でバス

の情報が見られると良いと思うが。このような事例や情報があるか。

D委員 防長交通では5, 6年前にバスロケーションシステムを導入して、同時期にデジタルサイネージの導入についても検討をしていたが、結果として防府エリアには導入をしていない。始発地ではなく経由地近くの待合所でバスの到着時間が分かると、待合環境という意味では一番いいと思う。初期費用だけでも高額で、通信費等のランニングコストもかかってくるので、費用との相談になってくると思う。

目山会長 待合環境と言ったときに重要なのが情報提供、情報取得。バスに限らずタクシーも何台待っているか分かるだけでも特に病院では利用者が多いので、大変便利。こういったDXについても、今後数年で劇的に変わると思われる。

その他（運転士不足対策事業の申請状況）について、事務局から説明。

目山会長 この事業は採用の後押しになっているか。C委員から生の声を聞きたい。

C委員 大変助かっている。新しく入ってくるドライバーも、採用の時もそうだが、入ってからもモチベーションになっている。これからも利用させていただく。

B委員 2024年問題でバスの始発繰り下げ、および終便の繰り上げが起こっている状況。利用者からは不便の声を聞く機会が多い。バスのない時間帯に夜間タクシー制度によって、タクシーにフォローしてもらっているのが大変ありがたい。運転士不足の中、以前はライバルだったタクシー・バスは手を取り合っていく仲だと思う。防府市の夜間タクシーの取り組みを乗客に案内する機会もあるので、ぜひ続けていただきたいと思う。

目山会長 地域公共交通活性化協議会の方向性として、競合だったバス事業、タクシー事業が連携していくために、行政側には事業者の間を取り持ちながら、事業を進めてもらいたい。

5. 閉 会
